

事例

食と「いのち」のつながりを学ぶ体験プログラム
(第3回食育活動表彰 農林水産大臣賞受賞)

有限会社蔵王マウンテンファーム (山形県)

有限会社蔵王マウンテンファームでは、動物たちと暮らす山川牧場を活動の場に、自然の営みを手本とした「循環の輪」を基本とし、オリジナルの体験プログラムや紙芝居を活用した活動をしています。牧場での体験学習と出前講座を行っており、幼稚園・保育所の子供たちから老人福祉施設の高齢者まで幅広い年齢層を対象としています。

酪農は「いのち」を作り、育て、その「いのち」を売って社会へつなぐ仕事であり、人間は自然の「いのち」の恩恵を受けて生活しています。酪農の仕事について紙芝居を使ってありのままを伝え、体験プログラムではニワトリの命を絶ち、食べ物にし、みんなで調理して食べるなど、自然のサイクルと人間との密接な関わりについて考えるきっかけを提供しています。参加者は、一連の流れを通じ自然の「いのち」のサイクルと人間が密接な関係にあることを理解し、普段の食生活の重要性を再確認します。

蔵王マウンテンファームでは、食べ物が生産される現場で参加者が驚きとショックの中で学び、感動し、共有する機会を長年にわたり提供してきました。参加者からの感想や感謝の手紙が日々の活動の励みにもなっています。今後、教材や指導書を含むこれまでの体験学習や出前講座の内容と教育効果を取りまとめた冊子の発行、新たな体験プログラムや教材、指導書の作成、後継者の育成や賛同者を増やすことを目指しています。



牧場での牛と子供のふれあい体験



出前講座の様子と小学生からの感謝の手紙



食べ物になったニワトリ



調理し、皆で「いただきます」

第5章

生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等